

# ツナガル通信

発行日：平成30年4月6日

発行元：ESD・市民協働推進センター

岡山市役所本庁舎 2階

月～金曜日、9:00～17:00

TEL：086-803-1062

070-5055-7589



Vol.32

## CONTENTS

- \*みんなのトイレ美化プロジェクト！
- \*大人になるのが楽しみな中学生増加中！
- \*市民協働推進 Q&A
- Q.協働推進員は、どんなところに協働の効果を感じている！？



### みんなのトイレ美化プロジェクト！！

全国の自治体で「公衆トイレ」の活用による安全・安心向上、観光振興、地域活性化が進められています。「暗い」、「汚い」という従来の公衆トイレのイメージを払拭するため、岡山市内においても市民のアイデアや意欲を活用する「ネーミングライツ制度」が導入され、公衆トイレに新たな価値が付与される期待が高まっています。そこで、芸術・美化活動を通じて公衆トイレを観光客や地域の方に利用してもらう為、芸術への理解を促進し、郷土愛の醸成をはかるなど新しい価値を付与する為に、中国デザイン専門学校と庭園都市推進課が協働して平成29年度市民協働モデル事業で「みんなのトイレ美化プロジェクト」を行いました。

南方公園の公衆トイレの美化が決まり、昨年12月に中国デザイン専門学校、地元の後楽館高校、南方

地域の方々、担当課でトイレの壁画へのアイデアを共有するワークショップを開催、ワークショップで出たアイデアをもとに2月から3月の4日間をかけて中国デザイン専門学校の生徒、教員によりトイレの清掃と壁画制作を行いました。作業最終日には後楽館高校の生徒と共に壁画を完成させ、3月16日、壁画の完成披露と作業の報告会を行いました。

岡山の街にまた一つ素敵なアートスポットができあがり、アートが公共・公益に寄与する可能性を探り、また地域住民自身がトイレを資源として継続して活用する期待が込められています。



### 大人になるのが楽しみな中学生が増加中！！

人間関係の希薄化にともなって、子どもが多様な価値観や生き方を知る機会が減少しており、他者と異なる生き方や働き方を肯定しづらくなっていると言われています。中学生が地域の大人や大学生との対話を通じて、様々な価値観や生き方を知り、自己肯定感の高揚や地域への愛着を育むような新しいキャリア教育プログラムの開発が期待されています。

NPO 法人だっぴと教育委員会指導課・生涯学習課が協働して、市民協働推進モデル事業で「中学生が地域の大学生、保護者と交流するキャリア教育授業の実施と展開」を行いました。3年目となる今年度の事業では中央中学校・建部中学校・旭東中学校・足守中学校の461名の中学生が大学生や大人と関わる機会が作られました。

だっぴは、中学生だっぴのコーディネーター、大学生ボランティアの募集・研修、蓄積されたノウハウの体系化などの役割を担い、教育委員会は、市内中学校への情報発信、教育の知識・経験や教育現場の実情に基づく助言などの役割を担いました。

事業の中で、学校を主体とした開催だけでなく、地域が主体となって開催する場合にも対象を広げて「中学生だっぴ」の開催マニュアルを作成し、今後だっぴは、実施の相談から開催のサポートの体制を整えていくこととしています。中学生が「大人になるのが楽しみ！」と感じる多様な生き方を知る機会の広がり期待です！



## 「協働」に関するQ&A ～協働の理解を深めよう！！～

平成27年度に設置された ESD・市民協働推進センターには、市民や団体、市役所職員など多くの方が訪れます。その中でのご質問やご意見をこの通信で紹介し、協働について一緒に考えていきたいと思ひます。

### Q.協働推進員は、どんなところに協働の効果を感じている！？



協働を推進していく際に、例えば自分の課の事業では効果を単純に数字で表しにくいが他事業はどうなのだろうかと疑問に持つ方もいます。岡山市64課の協働推進員の方に平成29年度に行ったヒアリングの中で、協働事業に対して、協働によって得られた効果について尋ねてみました。その中でみなさんが感じられていたことを、いくつかのポイントまとめてご紹介します。

#### ○協力者・関係者が増えた！

「関わる世代が広がった」「高校生や大学生の参加者が増えた」「主要な関係先と繋がることが出来た」という声がありました。協働以前は行えなかった行政機関や学校へのアプローチが可能となった事業もあります。市と協働することで信頼度が増し事業の幅が想定以上に拡大した、説明の場を設けることが出来た、参加者が増えて運営の手が回らなくなった、という事もありました。

#### ○新たなアイデアが生まれた！

「これまでにない視点、切り口での施策の実現に向けて取り組むことが出来た」「情報共有により新たなアイデアが生まれ、地域や高校生、大学生を巻きこむことが出来た」という声がありました。民間の目線や当事者としての目線から考えることで行政だけで考えると躊躇してしまう方法に関しても背中を押される気持ちで取り組むことができることもあります。

#### ○情報の収集発信が広がった！

「地域組織が主体となる事で住民や利用者の多様なニーズの把握や利用者へのきめ細かいサポートが可能となった。」「情報を伝えたい市民、団体に広く発信することが出来る。」といった声がありました。専門家への情報発信が幅広く伝えたい人に行えたことで、講演会の参加者が想定以上となり、県外からも多数の参加があったというものもありました。

#### ○地域へのアプローチが高まった！

地域へ入り込んでいる団体や地縁組織と協働をすることは、地域の実情を踏まえたアプローチや地域住民からの信頼が必要となります。アプローチの手順や重要視すべきことを担当課と情報交換することで幅広く結果を集めることが出来た例もありました。

#### ○継続性も大切！

継続し長期的にみなければ効果はわからないと回答される方もいます。事業を行い、その後の事業が定着する、新たな取組みに繋がるまでは時間が掛るものもあります。子どもを対象としたものなど、単純に事業への参加者数だけでは判断できない、大人となったときの人間形成に関わることなどもあるため、長期的な目線を持ち、事業実施後も支援を継続していくことで効果が見えるようになります。

協働事業の効果は、データや数字がある、メディアの露出、話題になる等効果が出ているものは第三者から見えやすいですが、事業実施者や行政担当者は、周りからは見えにくい部分でも、新たなアイデアの発想や情報発信に効果を強く感じられているようです。